

かわぎ

vol.
53

CONTENTS

放射線医学分野主任教授 就任挨拶	2
総合相談・支援センターについて	2
ふたり主治医制について	3
夜間・休日診療変更のお知らせ	4
新病院建築状況	4
医療機関を対象とした研究会のお知らせ	4

東京医科大学病院の理念と基本方針

理 念

人間愛に基づいて、患者さんとともに歩む良質な医療を実践します。

基本方針

本学の校是である“正義・友愛・奉仕”を実践します。

1. 患者さんと信頼関係を築き、安心して開かれた医療を提供します。
2. 地域医療機関と連携して良質で高度な医療を提供します。
3. 人間性豊かで人類の福祉と幸せの実現に貢献できる医療人を育成します。



撮影：岩井温（東京医科大学病院 総務課）

放射線医学分野 主任教授 (放射線科 診療科長)

さいとう かずひろ
齋藤 和博

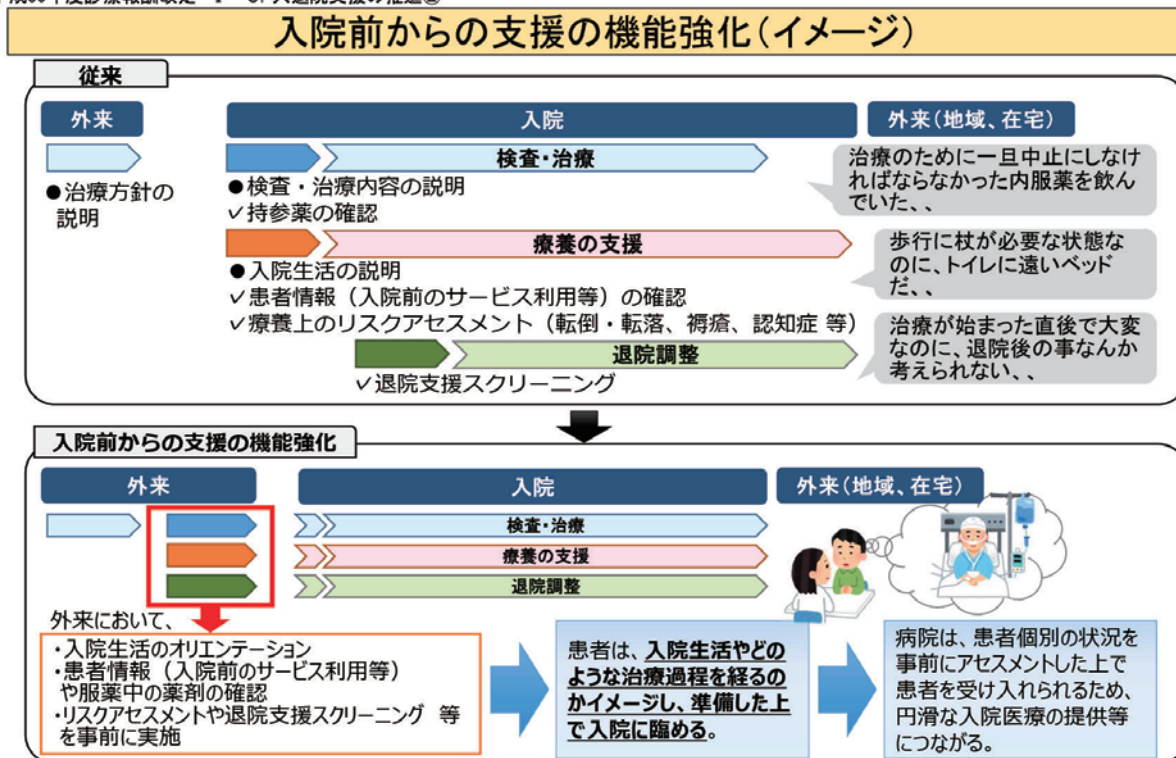
この度、平成 30 年 4 月 1 日をもって、東京医科大学放射線医学分野主任教授を拝命致しました。放射線科には CT, MRI の読影そして画像ガイド下治療を行う画像診断部、放射線治療を行う治療部、そして放射性同位元素を投与し、診断あるいは治療を行う核医学部があります。当科では最新鋭の装置を用い、専門的な画像診断、治療を提供すべく、院内の診療各科と連携しながら日々診療にあたっています。画像診断は現在の医療を支える一つの大きな柱となっています。そのため、画像診断の需要は年々増加傾向にあります。また、医療安全の面からも、その重要性が見直されております。正確な診断のためには、その病態に適した撮像方法が必要です。また、放射線治療もその病態に適したエビデンスに基づく治療が望まれます。私共、放射線科教室員一同、地域の皆様に安心、満足していただける医療を提供し、地域連携を進めていきたいと考えております。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

総合相談・支援センターについて

「退院支援」から「入退院支援」へ

平成 30 年度診療報酬改定にて、従来の退院支援から入院前からの支援の機能強化が評価されていることにより、「退院支援加算」から「入退院支援加算」に改称されました。

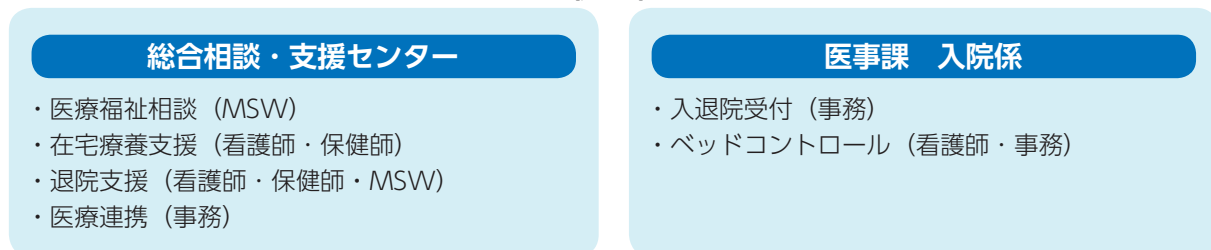
平成 30 年度診療報酬改定 I-3. 入退院支援の推進②



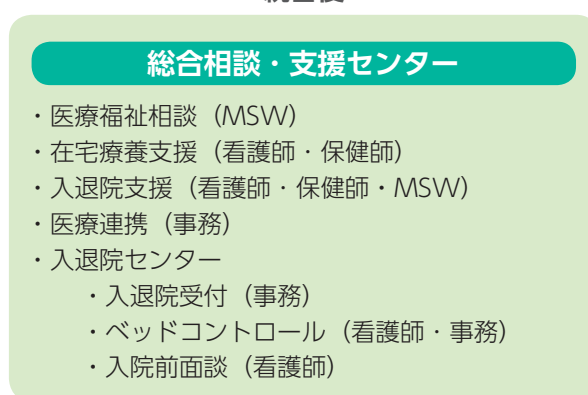
入退院センターの開設

本改定に先立ち、当院では平成28年9月1日より入院決定時から退院を見据えた患者支援を実現するために、総合相談・支援センター内に「入退院センター」を設置いたしました。入院前から退院後の状況・生活を見据えた治療・看護を提供し、地域の関連職種との連携強化及び患者・家族が安心して退院後の療養生活に移行できるようにコーディネートすることを目指しております。

従 来



統合後



特徴

- ①予定入院患者さんに対して入院予約時に面談を行い、以前は入院後に行っていた情報収集を入院前に行っています。特に休薬が必要な薬を常用していないか、お薬手帳などで確認しています（患者さんに、病院受診時はお薬手帳を携帯するようお願いください）。
- ②入院前面談時に、患者用クリニカルパスやパンフレットを用いて入院生活の経過や入院・手術等に必要の物品について説明を行い、患者さんが治療経過をイメージしやすくなるお手伝いをしています。また、不明・不安点はないか確認し、より安心して入院できるよう対応しています。
- ③得られた情報をベッドコントロール部門・入院病棟・退院支援部門と共有し、より良い療養環境の調整に役立てています。
- ④入院早期から退院支援計画に着手するとともに、地域で患者さん・家族を支援してくださっている医師・訪問看護師・ケアマネージャーと早期に連絡・連携できる体制をとっています。

ふたり主治医制について

当院では「ふたり主治医制」を積極的に推進し、「かかりつけ医」と「大学病院」が協力し合って、質の高い医療を提供していきたいと考えております。

患者さんの病態の把握と長期処方による副作用の早期発見と防止のために、病状が安定し、長期投薬が可能な方については、「かかりつけ医」の先生に紹介させていただき、当院の医師が「ふたり主治医」として連携しながら患者さんの治療にあたります。

高度急性期病院としての役割を担うため、先生方と一層の連携を図ってまいりたいと存じます。これからもご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



夜間・休日診療体制変更のお知らせ

平成 30 年 1 月 9 日より、新宿労働基準監督署より医師の労働時間に関する指導があり、医師の当直体制を変更しております。

従来、夜間・休日等の診療時間外におきましては、各診療科の当直医が院内に常駐する体制をとっていましたが、変更後より専門科の異なる医師同士による総合的な診療チーム（内科、外科、小児、救急など）を編成し院内に常駐させております。これに伴って、このチーム以外の診療科はオンコール体制のため、従来と比べご不便をおかけいたしておりますが、当院の事情、医師の働き方改革の観点等をご賢察いただき、ご理解の程よろしくお願いいたします。

※夜間・休日の診療体制は、緊急度の高い二次救急医療【救急外来】と三次救命救急医療【救命救急センター】の診療受入れとなります。

※夜間・休日帯に患者受入れのご依頼をされる際には、事前に電話（代表：03-3342-6111）でのご紹介いただいた後に、緊急度により東京消防庁への患者救急搬送指示等でご来院いただくようお願いします。

新病院建築状況

平成 31 年 3 月の竣工、同年 7 月の開院を目指し、工事は着々と進められています。去る 3 月 30 日には建方が完了し、無事、棟が立ち上がったことの感謝と今後の工事の安全祈願を込めて上棟式を執り行いました。

外装は下の階から順次仕上がり、外装工事を追いかけるように建物内部では軽量鉄骨により諸室が徐々に作られ、内装や設備の工事が始まっています。

東京医科大学病院は高度急性期医療を担う特定機能病院として、地域の医療機関とも連携し、患者さんに良質な医療を提供するため、成長と変化を続けて参ります。



(撮影:平成 30 年 4 月中旬)

医療機関を対象とした研究会のお知らせ

第 47 回 新都心医療連携懇話会

●日 時 平成 30 年 7 月 5 日 (木) 19:00 ~

●場 所 東京医科大学病院 本館 6 階 臨床講堂

●テーマ 「呼吸器疾患・がんにおける医療連携」

●内 容 講演① 『医療連携による COPD・喘息の専門的治療』

東京医科大学呼吸器内科学分野 主任教授 阿部 信二

講演② 『肺がんの最新情報 - 診断から治療まで -』

東京医科大学呼吸器・甲状腺外科学分野 教授 大平 達夫

講演③ 『肺がんの緩和ケア：治療期の Supportive Care から End of Life Care まで』

東京医科大学麻酔科学分野特任教授／東京医科大学病院緩和医療部部長 田上 正